



アスチカ会員アンケート結果 回収数 63/115世帯(54.8%)

※配布日:2013年12月27日

※1世帯に1部を配布。

Q1 全国避難者登録システムに登録されていますか？

	世帯数	%
登録している	45	71.4
登録していない	18	28.6

登録していない理由

	世帯数	%
システムを知らない	7	38.9
登録するメリットを感じない	1	5.6
登録する対象でないと思っている	6	33.3
その他	1	5.6
無回答	3	16.7

Q2 住民票は異動しましたか？

	世帯数	%
異動した	47	74.6
異動していない	15	23.8
一部のみ異動	1	1.6
無回答	0	0

異動した理由(複数回答あり)

	世帯数	%
移住だから	33	70.2
避難先へ納税	3	6.4
仕事の都合	8	17.0
子どもの保育園や学校の都合	3	6.4
その他	8	17.0

(その他・自由記入)・いろいろな手続きに不便だから。本当は福島のままが良かった。

・これをきっかけに自分らしい生き方を探そうと思った。頭の中を切り替えたかった。

・行政サービスの都合上。

・地域に溶け込むため。

異動しない理由(複数回答あり)

	世帯数	%
不都合がない	4	26.7
家族のつながり	7	46.7
避難元の子どもの医療費支援が充実	3	20.0
福島県県民健康調査などの健康管理の維持	6	40.0
その他	6	40.0

(その他・自由記入)・賠償問題があるため、移動することは心配。

・選挙権

・避難元からの情報を得るため。

住民票を福島県外へ移すと、「福島県県民健康管理調査」の対象から外れてしまうということがあります。

### Q3 避難の理由は何ですか？

避難の理由(複数回答あり)

	世帯数	%
津波地震による家屋の消失・損壊	6	9.5
原発事故による強制避難	4	6.3
原発事故による健康影響(含、不安)	46	73.0
仕事がなくなった	4	6.3
精神的ストレス	21	33.3
余震への不安	17	27.0
原発事故悪化への不安	34	54.0
その他	9	14.3

「精神的ストレス」と「余震への不安」は地震・津波での避難者、原発事故による避難者のどちらからも選択があった項目です。

#### (その他・自由記入)

- ・自分たちが愛していた山での暮らしが不安なものになってしまった。
- ・子どもの通っていた小学校への不信。
- ・放射能汚染。

### Q4 広島へ避難された理由は何ですか？

(複数回答あり)

	世帯数	%
地震等自然災害が少ない	13	20.6
被災地から遠い	21	33.3
自然に恵まれている	8	12.7
被爆地であることへの期待	15	23.8
生活が便利	4	6.3
家族・親族がいる	27	42.9
友人・知人がいる	12	19.0
知っている避難者がいる	2	3.2
たまたま仕事が見つかった	6	9.5
以前住んだことがある	3	4.8
西の食材が手に入りやすい	13	20.6
一時避難・保養に来た縁	4	6.3
避難者への支援がある	4	6.3
その他	7	11.1

避難の時期が早い会員は「家族・親族がいる」の選択が多く、後になって避難してきた会員はそういった縁が全くない中で広島を選んできた傾向があります。

#### (その他・自由記入)

- ・大きな都市なので求人は比較的多いと思った。
- ・住宅支援があったから。

## Q5 現在お住まいの住宅は？

	世帯数	%
県営住宅	5	7.9
市・町営住宅	4	6.3
雇用促進住宅	4	6.3
民間借り上げ住宅	16	25.4
実家、親戚宅	3	4.8
民間賃貸住宅	19	30.2
持ち家	4	6.3
その他	5	7.9
無回答	3	4.8

(その他)

・実家や知人の持家を借りている。

災害救助法の適用地からの避難者とそうでない地域からの避難者への住宅支援の差が大きいのが現状です。

## Q6 お住まいでのお悩みはありますか？

- ・住宅支援をいただいているのが、いつまで続くか不安。それにより住み替えも検討しなければならない可能性もあり、見通しがつかないことへの不安があります。
- ・築 31 年なので建替え→住替えになったとき、資金・保証人をどうするか。
- ・子供の成長に伴い部屋が手狭になってきた。しかし、住宅支援を受け続けるためには制度上引っ越しできない。
- ・子どもが 4 月から中学生なので今の住居は狭いのですが、引っ越しはお金がかかるし、将来も不安定なのでなかなか引っ越しは難しいこと。
- ・市街地から離れているため、車の運転ができないと交通の便が悪く、身動きがとれない。
- ・避難時に急いで探した物件で、環境等で満足できる物件ではなく、今も、永住できるような場所を探している。
- ・大きな地震で崩れないか心配。

## Q7 生活費を支えているものは何ですか？

(家族で避難されている世帯)

(単身・母子等家族の一部で避難されている世帯)

(複数回答あり)

	回答数
世帯主の収入	32
配偶者の収入	8
預貯金	11
年金	2
賠償金	2
その他	2

(複数回答あり)

	回答数
ご本人の収入	9
家族からの仕送り	9
預貯金	6
年金	3
賠償金	0
その他	1

(その他)・母子手当。

・一時金、子ども手当

(その他) 実家からの仕送り

## Q8 生活費・収入は十分ですか？

	世帯数	%
十分	4	6.3
まあ満足	27	42.9
苦しい	24	38.1
その他	3	4.8
無回答	5	7.9

住宅支援等が打ち切られたら、「まあ満足」から「苦しい」に転じる世帯はかなりあるだろうと思われます。「まあ満足」と回答していても、預貯金を切り崩して生活している世帯も少なくありません。

## Q9 生活費・収入に関して、ご自由に

- ・今は家賃補助があるからよいが、なくなったら苦しくなる。
- ・ほとんどの人が避難していないので、避難することは特別なことのように仕送りを頼むのも遠慮がある。贅沢はしていないつもり。
- ・二重生活で主人と自分の収入でやっと生活している状態。子どもを守るためになんとか頑張っている。前に進むしかないです。
- ・今の雇用形態(契約社員)、今の給与でこの先生活が成り立つのが常に不安。
- ・苦しいというかお金をなるべく使わない生活を心がけている。はっきり言えば、賠償金などしっかり対応してもらいたい。
- ・生活していく分には足りるが、子どものこと、将来、老後のための貯蓄とまではまだ十分でない。避難前だったら私も働いていたが、移住してきて新しい仕事を一から探すのも難しい。
- ・自分で仕事を作りたい。
- ・生涯年収の減少、年収の減少。持ち家から賃貸での家族の不安増大。
- ・新規就農し、初期投資がかさむ。賠償金が打ち切られたら、今のアパートに居られなくなったら、不安は尽きません。
- ・田舎暮らしはお金がかからなくて楽しい。
- ・支援がなくなるのを承知で引っ越して、事業を始めた。その結果、起業に対しても何の支援・補助もなかったため、正直のところ、生活は苦しい。

## Q10 お仕事面でのお悩みなどはありますか？

- ・仮に65歳まで(仕事が)継続できたとしても月々の収入=月々の支出になってしまっているの、その先の見通しがつきません。
- ・自営業の拠点を見つけなければならない。
- ・夫がこっちに來れるような就職口。
- ・何処の職場であれ、何の職業であれ、さまざまな問題や悩み、苦勞はあります。自分は非常勤とはいえ、希望の職種に就職できたことは本当に幸せです。そのことを十分に承知しつつも、私の年代での再就職は思ったよりも大変。適応が難しかったです。
- ・根を張った仕事がしたい。
- ・正社員の仕事を探しているが、状況は厳しいこと。支援が欲しい。

Q12 今後のご予定は決まっていますか？

	世帯数	%
今住んでいる自治体へ定住	26	41.3
避難元ではないところへ移動	4	6.3
近いうちに避難元へ戻る	2	3.2
いずれ避難元へ戻る	2	3.2
決めていない	21	33.3
上記に当てはまらない	8	12.7

定住を選んでいても「そう言い聞かせている」世帯もある。「決めていない」は「決められない」という状況の方も多い。普段の姿を見て、前向きに定住を決めているのだらうと思っていた世帯が「決めていない」を選んでいることもあり、心の奥に割り切れない思いを抱えている方も多いことがうかがえる

**【定住】**

- ・妻の実家があり、友人も多い。
- ・帰る場所がもうない(自宅を売却してきた)。子どもたちに環境を大きく変えるようなことをしたくない
- ・先は分からないけど、自分に言い聞かせています。
- ・良いところなので。
- ・福島には帰れない。
- ・ここで農業すると決めたから。

**【移動】**

- ・夫の転勤が決まったため。避難生活に限界を感じたため。
- ・営農する場をさがしているから。
- ・今の場所は環境が悪いから。

**【近く戻る】**

- ・夫との約束の期限が来たため。

**【いずれ戻る】**

- ・原発事故の収束を目安と考えているがいつになるか見当もつかない。
- ・本当は子どものために定住したいですが、夫に反対されていますし、夫を残してきています。経済的、家族間のストレスすべてにおいて2年ぐらいが限界と思っています。

**【決めていない】**

- ・決められない。迷っている。
- ・(できれば定住)子どもの教育面で広島が良い。長い目で見て行きたい。
- ・先が見えていない。
- ・定住と戻りたいの二つの気持ちがあります。

**【当てはまらない】**

- ・どこも天国はない。自分たちで作っていくしかない。
- ・避難元福島は生まれ育った土地ではなく、環境を気に入ったので、親戚がいるわけでもなく、いったん離れてしまって自然環境も変わったとなると戻る理由がなくなってしまった。かといって、今の居住地にも愛着が持てずにいる。次の土地を探したいと思っている。

- ・子どもたちの進路にも気を使っている。
- ・近県の島根・伊方原発が再稼働になった場合、再考する。

Q13 現在、特に大変なこと、つらいことは何ですか？（上位3つを選んでください。）

特に大変なこと・つらいこと（上位3つ・3つ以上の回答も含む）

	世帯数	%
仕事が見つからない	3	4.8
生活費が足りない	16	25.4
体調不良	14	22.2
育児	4	6.3
子どもの教育・進路	7	11.1
家族バラバラに暮らしていること	13	20.6
避難元の親・親戚・友人になかなか会えないこと	26	41.3
心の余裕のなさ・精神的な不安定さ	22	34.9
家族間の意見の不一致	4	6.3
避難元の復興が遅れていること	4	6.3
避難元に帰れないこと	8	12.7
今住む地域に親しい友人がいないこと	6	9.5
避難元の友人と疎遠になってしまったこと	17	27.0
震災や原発事故のことが世間から忘れられているように感じること	18	28.6
避難先の人たちと意識の差を感じる	16	25.4
特になし	3	4.8
その他	10	15.9

#### （その他・自由記入）

- ・関東からの移住への理解が薄い。
- ・生活が安定していない。頑張っても安定するかどうか分からない。過労気味。
- ・避難元の情報不足、支援の差（県外へ避難した人と被災地に留まっている人）
- ・避難先の地域性になかなかなじめない。ようやく一人二人しゃべれる友人が出来始めたところ。
- ・仕事を新しく始め、ちょうど思春期の子供に十分に声掛けや関わりが持てなく、子どものために避難してきたのに子どもに申し訳なく思います。親にも余裕がなければ子どもも不安だと思えます。
- ・残っている子どもたちや友人の健康

上位3つという条件がなければ、もっとたくさんの項目を選びたかった人はたくさんいただろうと思われま。一旦〇をつけて消した跡がたくさん見られました。その中でも1番多くの世帯に「避難元の親・親戚・友人になかなか会えないこと」が選ばれたのは避難者の胸の内が良くわかる結果だと思います。いつも前向きな姿を見せてくれている会員の方もこの項目を上位3つに入れていたのが印象に残りました。

Q14 今後に関し、どんなことに不安がありますか？（上位3つを選んでください。）

（上位3つ・3つ以上の回答も含む）

	世帯数	%
避難先の生活が安定するか	29	46.0
健康	38	60.3
避難し続けられるか	7	11.1
住宅支援がいつまで続くか	16	25.4
子どもをしっかり育てられるか	16	25.4
家族と一緒に暮らせるか	10	15.9
避難元へ帰れるか	3	4.8
避難元へ帰らなければいけないこと	6	9.5
避難元へ帰ったら孤立しないか	3	4.8
特になし	5	7.9
その他	12	19.0

（その他・自由記入）

- ・（福島からの移住者）子どもの医療費用。福島に居たら無料で県外に出たら負担しなければいけないことに不公平感を感じる。子どもに何事もないことを願うばかり。不安。
- ・放射能汚染の程度・現状がはっきりして来ず、関東に戻ったとして安全な生活が送れるかわからない。
- ・自主避難、および単身のため、いろいろな場面での負担が大きいことに対して苦慮する。
- ・人にも地域にも恵まれていて、とても良い暮らしができていていると思っているけど、馴染めてないような孤独感を感じることが多くある。
- ・原発事故収束作業中にまた巨大地震が来ないか不安です。また福島第一原発を直撃しようものなら今度はどんな事態が起こるか不安でなりません。
- ・まず、収入を安定させることが第一です。
- ・日本が変な方向へ進んでいるように感じる。
- ・ずっと家族バラバラで良いのか。夫の健康不安。実家の両親の将来・健康不安。
- ・今後の生活が全く見えない。これからどうなるのか不安。
- ・夫との温度差。
- ・これから安定させられるようにしていきます。

「健康」は将来的な懸念と、避難生活での疲れからくる健康への不安と両面がある。

「住宅支援」は、今後の人生設計にも大きくかわることなので、1年ごとの延長決定への不安が根強い。

「子どもをしっかり育てられるか」は健康面の不安という面と、収入や貯蓄等十分でないことから、十分に教育の機会を与えて行けるかという不安との両面があるようである。

震災後丸3年経つのに、先が相変わらず見えにくいことで精神的な疲れをためている人も見られる。

その一方で、順調に生活を落ち着かせている世帯も多くの世帯とは言えないが、ある。

世帯ごとの生活の状況の差が年月とともに大きくなっている。



Q15 これまで、アスチカの交流カフェに参加したことはありますか？

	世帯数	%
参加したことある	45	71.4
参加したことがない	18	28.6

⇒①～③

⇒④

① また参加したいと思いますか？(45人)

	世帯数	%
はい	37	82.2
いいえ	4	8.9
その他	1	2.2
無回答	3	6.7

② また参加したい理由(45人)

(複数回答あり)

	世帯数	%
情報交換	25	67.6
他の避難者のとの交流	30	81.1
託児がある	4	10.8
外出の機会	6	16.2
リフレッシュ	11	29.7
その他	2	5.4

(その他)・会場が近ければなおよい。

③ もう参加したくない理由(45人)

(複数回答あり)

	世帯数	%
楽しくなかった	0	0
今は必要を感じない	1	25.0
求めているものと違った	3	75.0
その他	1	25.0

(その他)

・子どものいる家族向けというカンジが強いので、それが悪いという意味ではありません。むしろお子さんを抱えて大変な方の支えになることを望んでいます。

④ 参加していない理由(18人)

(複数回答あり)

	世帯数	%
避難元・状況が違う人との交流は不安	5	27.8
日程が合わない	7	38.9
余裕がない	4	22.2
会場が遠い	2	11.1
交通手段がない	2	11.1
特に行く必要がない	1	5.6
家族で過ごす時間を優先	0	0
震災のことを思い出したくない	4	22.2
自分のことを話したくない	2	11.1
その他	6	33.3

- (その他) ・一人ではなかなか行き難い。  
 ・交通費がかかり過ぎる。

Q16 今後どのような情報の充実を望みますか？

(複数回答あり)

	世帯数	%
定住のための情報	26	41.3
住宅	18	
雇用	10	
教育	10	
その他	4	
避難元の情報	10	15.9
復興状況	8	
住居	2	
雇用	0	
教育	1	
その他	4	
原発事故にかかわる訴訟の情報	14	22.2
住んでいる地域の情報	18	28.6
その他	9	14.3

(その他・自由記入)

- ・シングルマザーのための情報。子どものための情報。健康のための情報。
- ・避難者が必要なものなどを取りまとめ、広島の人に呼びかけたりもあってうれしい。子供服、自転車、昔の農機具など。
- ・東電と政府の原発事故についての(処理の)逐一の情報。
- ・健康に関する情報を集約する。
- ・給食問題。
- ・中国地方やその他の地域の避難者支援活動の動きや連携・連帯などの取り組みがありましたら教えてください。
- ・自分は原発事故による自主避難だが、津波による避難の方や、避難の仕方も、本当にそれぞれなので、他の方の身の上話や現在始めたこと、始めようとしていることなどもお話を聞く機会があったらいい。
- ・これから移住してくる人のための保養や定移住の情報発行

Q17 来春に、広島市に常設の交流スペース開設し、「避難者の拠り所&ひろしまと避難者をつなぐ場」とすることを  
目指しています。そこでやることとして以下の5つが挙がっています。特に期待するものに○をつけてください。

(複数回答あり)

	世帯数	%
避難者が必要とする情報にアクセスできる場	32	50.8
誰かとおしゃべりしたいときにいつでも集える場	16	25.4
お子さんを預かり、お母さんの求職やリフレッシュの時間をつくる	9	14.3
会員が作成した物品の販売	8	12.7
広島の方と避難者の交流	5	7.9

Q18 上記以外でやってほしいこと、やりたいこと

- ・定期的な学習会やワークショップなど(子育てのこと、ヨガ、手仕事など)
- ・図書、新聞コーナーを設置されたら利用させてください。
- ・とにかく楽しいことを。笑いが出るように。
- ・費用(経費)面が大変そうで心配です。交流スペース開設のハードルは高いのでは…と心配ですが、実現できたら本当にうれしいです。
- ・安全でおいしいお茶が飲めて、足湯や足つぼ(自分でおしゃべりしながらやる)をしながら、愚痴がこぼせる場所であるといいなあと思います。
- ・広島の方に壁があると言われない空間にしたい。